

令和 4 年 5 月 25 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18H00660

研究課題名(和文) 社会主義文化と身体イメージ：ユーラシアにおける英雄・女性・死者の表象比較研究

研究課題名(英文) Comparative Cultural Studies on the Representation of Heroes, Women and the Dead in Socialist Eurasia

研究代表者

田村 容子 (TAMURA, Yoko)

北海道大学・文学研究院・准教授

研究者番号：10434359

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ユーラシアの社会主義圏における身体イメージについて、中国語圏とロシアおよびベトナムを中心に比較し、非西欧圏・社会主義圏におけるナショナル・アイデンティティの生成、接触、変容を、図像学の手法を用いて明らかにするものである。
とくに戦争・革命にまつわるプロパガンダポスター、記念碑や人体模造などの非文字資料について、英雄・女性・死者の身体イメージに焦点をあてて読み解き、各地域における社会主義文化の伝播や歴史的記憶の構築のありようを分析した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、20世紀のユーラシアにおけるソ連型社会主義の文化的意義について、アジアの視点から位置づけるところにある。各々の地域ではアジアの伝統的な家族観や宗教観と、ソ連型社会主義の制度をいかに結合させ、新たな国民像を形成しようとしたのか。この問いをめぐる研究成果は、研究代表者と研究分担者が各年度に発表した。研究期間終了後、最終的には論集として刊行予定である。

研究成果の概要(英文)：This study compares representations of the body in socialist Eurasia, with a focus on Chinese-speaking countries, Russia, and Vietnam, to reveal the creation, contact, and transformation of national identity in the non-Western and socialist worlds using iconographic techniques.

In particular, the project focuses on non-literary materials such as propaganda posters related to wars and revolutions, monuments, and human body imitations, focusing on the body images of heroes, women, and the dead, and analyzes the transmission of socialist culture and the construction of historical memory in each region.

研究分野：中国文学・演劇

キーワード：比較文学 社会主義文化 プロパガンダ芸術 ジェンダー 図像学

1. 研究開始当初の背景

社会主義圏のプロパガンダ表象に関する研究は、地域別の研究にはすでに一定の蓄積がある。たとえば、中国についてはAndrews, Julia F. *Painters and Politics in the People's Republic of China, 1949-1979* (1994年)、牧陽一・松浦恆雄・川田進『中国のプロパガンダ芸術』(2000年)などがあり、ソ連とユーゴスラビアを扱った亀田真澄『国家建設のイコノグラフィ』(2014年)、ベトナムを扱った京樂真帆子『英雄になった母親戦士 ベトナム戦争と戦後顕彰』(2014年)は、社会主義プロパガンダと国家建設や、戦後顕彰について論じている。また、イーゴリ・ゴロムシトク『全体主義芸術』(1994年、邦訳2007年)は、プロパガンダ表象の比較研究の枠組みを提示した。

これらの研究の進展により、社会主義圏を横断的に比較、分析する研究の可能性が切り拓かれたものの、中国やベトナムなどアジアを含む、複数地域の社会主義文化を比較研究する試みは、まだ緒に就いたばかりの段階である。

2. 研究の目的

(1) 学術的意義

本研究の核心をなすのは、20世紀のユーラシアにおけるソ連型社会主義の文化的意義について、アジアの視点から位置づけるという学術的営為である。

共産党の一党独裁のもと、中央集権型の官僚制が構築されたソ連型社会主義は、ソ連から東アジア、東南アジアなどにも拡大した。第一次世界大戦後、ロシア革命を経て誕生した社会主義国家ソ連は、第二次世界大戦後の社会主義陣営と自由主義陣営との間の冷戦、および朝鮮戦争、ベトナム戦争といった代理戦争によって、中国やベトナムのナショナル・アイデンティティ形成に多大な影響をもたらした。1989年の東欧革命、1991年のソ連崩壊によってその影響力は失墜したものの、共産党の一党支配が続く中国やベトナムでは、市場原理を導入し、経済発展を遂げたことにより、依然として社会主義体制を維持している。

本研究では、中国やベトナムなどアジアにとってのソ連型社会主義が、各々の地域のナショナル・アイデンティティにいかに関与し、社会が要請する国民像(マスターナラティブ)を紡ぎ出したか、その生成の過程を明らかにする。

分析の対象としては、戦争・革命のプロパガンダポスター、および戦争・革命の記憶を伝える記念碑や人体模造、鎮魂のための場といった非文字資料を中心に扱う。とくに英雄・女性・死者の身体イメージに焦点をあて、中国にとって社会主義の模範的存在から敵へと位置づけの変容したソ連や、ベトナムにとってのソ連、中国など、各地域における社会主義文化の影響を、文化史の観点から読み解く。各々の地域ではアジアの伝統的な家族観や宗教観と、ソ連型社会主義の制度をいかに結合させ、新たな国民像を形成しようとしたのか。この問いを探求し、マスターナラティブに対抗する表象をも分析の対象に含むことによって、ユーラシアにおける社会主義文化の伝播や歴史的記憶が構築されるシステムについても考察する。

(2) 目的と特色

本研究の目的は、以下の通りである。

社会主義圏のプロパガンダに見られる身体表象について、それを特徴づけるテーマを設定し、中国・ロシア・ベトナムの事例を比較研究する。また、日本や西洋など非社会主義圏の事例を参照することにより、社会主義文化の独自性を明らかにする。それにより、各地域における社会主義文化を一面的な集合体にとらえるのではなく、非社会主義圏との境界や接触、および地域間の伝播やローカライズといった問題も考察の対象とする。

共同の比較研究に活用するため、各地域のポスター、映画、記念碑など身体表象に関する資料を収集する。複数の地域、言語を跨ぐ研究者間で共有可能な非文字資料を扱うことで、より広範な社会主義文化の比較研究にも資する、領域横断的な地域間比較研究のモデルを提示する。

本研究の特色は、中国を出発点としながら、広く社会主義圏を研究対象とするところにある。日本で進める研究である点を生かし、非社会主義圏とも比較を行い、ユーラシアという巨視的な視点から見た社会主義文化研究へとフィードバックを行う。

また、中国・ソ連・ベトナムの比較のみならず、各々の地域に隣接する同言語異文化圏(中国にとっての台湾・香港、ロシアにとってのベラルーシなど)を比較対象とすることで、社会主義文化の伝播過程やローカライズの様相を詳細に分析する。

従来の社会主義文化研究が、ソ連や東欧といったスラブ語圏を中心としていたのに対し、アジアにおける事例を提示することで、既存の研究の枠組みを検証することが可能となる。戦争や革命といった集団的危機の記憶と、社会主義イデオロギーの叙事との関係を考察し、ユーラシアの社会主義文化におけるイメージ生成のメカニズムを解明する。

本研究の研究代表者・研究分担者は、専門とする地域や言語が異なるのみならず、研究領域が文学・社会学・歴史学・映画学と多岐にわたる。非文字資料の示すマスターナラティブと、後景化された対抗的な表象を読み解く本研究の手法は、身体イメージに考察の対象を絞ることで、超

領域的な研究が拡散することなく、21世紀のグローバル化した世界における社会主義文化の理解に、新たな知見を示すことが可能となる。

3. 研究の方法

本研究では、社会主義圏の身体表象を特徴づける下記のテーマを、複数の研究分担者が相互に分析する体制を取り、研究会を通して意見交換を行った。必要に応じ、当該地域の専門知識を持つ外部ゲストスピーカーとの意見交換も行うことにより、研究の客観性を保つようにした。研究代表者は全体を統括し、各テーマの研究に関わり、円滑な遂行のための調整を行った。

(1) サイエンス・フィクション (SF)

ソ連と中国の間には、社会主義文化の継承と断絶の関係があり、科学技術政策においても、国家間の関係性に応じて互いを友好国/仮想敵と見なす、鏡像のごときプロパガンダ・イメージが形成された。SFにおける科学技術をめぐる想像が、どのようにナショナル・イメージの形成と共犯関係を結んできたのかを明らかにする。

(2) フォークロア

社会主義文化においては、戦争や革命など国家の危機や再創造を物語る際に、地域の伝承や歴史的英雄がしばしば召喚される。フォークロアとプロパガンダの親和性に着目し、社会主義イデオロギーの叙事において、「紅い英雄」として顕彰される伝承と、「まつろわぬ死者」として捨象されるイメージの操作について比較する。

(3) ジェンダー

国家主席を父とし、国民を社会主義イデオロギーによって結束した疑似家族と見なす家族観は、ソ連と中国の間で共通している。他方、中国とベトナムには儒教的な家族制度も残存し、軋轢が生じた。社会主義文化における公的なジェンダー規範と、そのローカライズの様相を再考し、マスターナラティブに回収されない性別役割を再定位する。

(4) ナラティブ

英雄化される身体イメージは、プロパガンダ芸術の一大主題であった。だが、ソ連型社会主義の影響力が弱まるにしたがい、それらのイメージは反転されたり、ノスタルジーや二次創作の対象となったりするなど、新たな叙事を生み出している。20世紀から現在までの身体表象を図像学の視点から分析し、社会主義文化のナラティブを体系化する。

4. 研究成果

本研究の成果は、以下の通りである。

(1) 平成 30 (2018) 年度

平成 30 (2018) 年度は、以下のような研究を実施した。

定例研究会の開催。9月29日に北海道大学にて、研究代表者・研究分担者が個別テーマに関する報告を行い、討議をした。また、ロシア・カルムイクの専門家である井上岳彦氏、およびベトナムの専門家である坂川直也氏と北澤直宏氏をゲストスピーカーとして招聘し、研究期間内に行う調査旅行についての専門知識の提供を受けた。そのほか、7月28日に北海道大学にて、映画上映会「ユートピアと記憶の亡霊：東南アジアのドキュメンタリー映画」を開催した。

資料調査。今年度は研究代表者・研究分担者がおのおのの専門地域である中国・ロシアの社会主義文化に関連する資料調査を個別に行った。

書籍、図像、映像資料の購入。社会主義文化・身体表象に関する書籍、図像、映像資料の新規購入を行った。

研究成果発表。研究代表者・研究分担者は、定例研究会における報告のほか、個別に成果発表を行った。研究代表者は、5月12日に開催された日本比較文学会中部大会（名古屋大学）において、中国のプロパガンダ芸術である連環画に関する報告を行った。また、7月21日に開催された国際シンポジウム（京都大学）において、中国と日本の社会主義バレエに関する報告を行った。10月21日には台南大学（台湾）で開催された国際シンポジウムにおいて、中国の社会主義バレエに関する招待講演を行った。

また、本研究の成果を広く社会に還元するため、成果刊行物発行のための打ち合わせを研究代表者・研究分担者・研究協力者の間で行った。

(2) 平成 31・令和元 (2019) 年度

平成 31・令和元 (2019) 年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、当初の計画を一部変更しながら、以下のような研究を実施した。

海外調査。2019年8月31日から9月10日にかけて、研究代表者・研究分担者によるベトナム調査を行った。調査地は、ハノイ・ゲアン・ホーチミンで、ハイバーチュン（徴姉妹）廟、ベトナム女性博物館、ホーチミン廟、ベトナムにおける党幹部の顕彰施設、キムリエン特別遺跡（ホーチミンの故郷）、戦争証跡博物館など。これらの施設において、女性・英雄・死者のイメージに関する資料収集を行った。また、水上人形劇、カイルオンにみられる同イメージの調査を行った。

国際研究集会の開催。2020年2月22日・23日、LMJ 東京研修センター（東京都文京区）に

において、「社会主義文化と身体・伝播・越境」と題する国際研究集会を開催した。ロシアの芸術・映画の専門家である本田晃子氏（岡山大学）とアナスタシア・フィオードロワ氏（ロシア・国立研究大学高等経済学院）をゲストスピーカーに招聘し、報告と討論を行った。そのほか、研究代表者・研究分担者の間で研究打ち合わせを行い、当該年度までの研究の進捗状況報告をした。

また、研究代表者・研究分担者が、当該年度までの研究成果を公開した。

（3）令和2（2020）～令和3（2021）年度

令和2（2020）年度から令和3（2021）年度にかけては、新型コロナウイルスの感染拡大により、当初の計画を一部変更しながら、以下のような研究を実施した。

令和2（2020）年度

新型コロナウイルスの感染拡大により、海外調査を延期とした。研究代表者・研究分担者は、オンラインで進捗状況を共有しながら、当該年度までの研究成果を公開した。

2021年3月20日、オンラインで研究打ち合わせを行った。

令和3（2021）年度

新型コロナウイルスの感染拡大により、海外調査を中止とした。その代替となる研究活動として、オンラインによる研究会と対面による研究打ち合わせを年3回行った。

2021年9月11日、12月11日、2022年1月29日、研究代表者・研究分担者は、研究期間終了後に論集として刊行予定の成果について、最終報告をした。研究会では、研究メンバー以外の参加者も交え、意見交換を行った。12月11日には、日本プロレタリア文学の専門家である村田裕和氏（北海道教育大学）と和田崇氏（三重大学）をゲストスピーカーに招聘し、報告と討論を行った。

また、年度末に、研究代表者・研究分担者は、本研究の成果を各々の論文にまとめ、論集刊行の準備を整えた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 田村容子	4. 巻 8
2. 論文標題 続・どうやって連環画をかくの? 『連環画報』投稿者たちの軌跡	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 連環画研究	6. 最初と最後の頁 85-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 武田雅哉	4. 巻 8
2. 論文標題 犀を想う 『西遊記』挿絵・連環画の犀牛怪図像	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 連環画研究	6. 最初と最後の頁 107-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 魏華 (山田千尋・武田雅哉訳)	4. 巻 8
2. 論文標題 民間美術様式の連環画芸術の研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 連環画研究	6. 最初と最後の頁 26-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 越野剛	4. 巻 8
2. 論文標題 接吻と白鳥とソ連映画 『1918年のレーニン』の中国における受容	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 連環画研究	6. 最初と最後の頁 69-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上岳彦	4. 巻 57
2. 論文標題 1850年代ロシア帝国における跛行的宗教行政 カルムイク人仏教徒・保護監督長・国有財産省	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史研究	6. 最初と最後の頁 43-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田村容子、越野剛	4. 巻 28
2. 論文標題 中国映画における『白鳥の湖』の受容と変奏	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 饗餐	6. 最初と最後の頁 114-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村容子	4. 巻 10
2. 論文標題 となりのソ連人 中ソ友好連環画の「家族」たち	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 連環画研究	6. 最初と最後の頁 34-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村容子	4. 巻 29
2. 論文標題 中華人民共和国建国後のバレエ・舞劇戯単調査 ソ連のバレエと北京舞蹈学校	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 饗餐	6. 最初と最後の頁 69-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂川直也	4. 巻 53(9)
2. 論文標題 魏徳聖における日本統治時代のエンタメ化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 254-261
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計28件 (うち招待講演 11件 / うち国際学会 13件)

1. 発表者名 田村容子
2. 発表標題 中国の「連環画」のなかの女たち
3. 学会等名 日本比較文学会第44回中部大会シンポジウム「女性とメディア」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田村容子
2. 発表標題 『赤いけしの花』から『紅色娘子軍』へ 中国、日本、ソ連の社会主義バレエの交流
3. 学会等名 京都大学人文研セミナー「日本・ルーマニア・ドイツ・中国・ソ連における社会主義と文化交流のネットワーク：文学、舞台演劇、映画」 (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田村容子
2. 発表標題 從《紅嬰粟花》到《紅色娘子軍》：中國、日本、蘇聯社會主義芭蕾舞之交流
3. 学会等名 2018臺南大學劇場與應用國際學術研討會：亞洲現代劇場與應用戲劇的在地描繪與形構(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinobu Myoki
2. 発表標題 Kai heritage in Japan and Yokai Tourism: The Cases of Sakaiminato, Yamashiro, and Tono
3. 学会等名 International Symposium: Transnational Contents Tourism in Europe and Asia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinobu Myoki
2. 発表標題 Inheritance of Folklore and the Image of the Furusato in Japan: The Cases of Tono, Yamashiro, and Sakaiminato
3. 学会等名 Furusato: 'Home' at the nexus of politics, history, art, society, and self, Venice (University of Venice) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Go Koshino
2. 発表標題 Post-Apocalyptic Shift in Soviet Science Fiction of the Early 1980s
3. 学会等名 ASEEES (Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies) convention (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名
2. 発表標題 『1918年のレーニン』の中国における受容) 1918 (ソ連映画『1918年のレーニン』)
3. 学会等名 the 9th East-Asian conference on Slavic-Eurasian Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 越野剛
2. 発表標題 『北（ノルテ）、歴史の終わり』考 アジア映画における『罪と罰』の受容
3. 学会等名 国際ワークショップ「表象文化としてのドストエフスキー」（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Go Koshino, Yoko Tamura
2. 発表標題 Images of Ballet and the Female Body: Chinese Acceptance of Soviet Film
3. 学会等名 The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田村容子
2. 発表標題 羅広斌・楊益言『紅岩』 中国社会主義プロパガンダ芸術における「母性」の表象
3. 学会等名 社会主義リアリズム研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田村容子
2. 発表標題 中華人民共和国における『白鳥の湖』 白淑湘の踊った白鳥と『紅色娘子軍』
3. 学会等名 ロシア・東欧学会2019年度研究大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 越野剛
2. 発表標題 現代アジアの映像作品におけるドストエフスキー『罪と罰』の翻案
3. 学会等名 日本比較文学会全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 越野剛
2. 発表標題 ヴァシリイ・アジャエフ『モスクワを遠く離れて』
3. 学会等名 社会主義リアリズム文学研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Go Koshino
2. 発表標題 Revolutionary Drama in Belarus and Ukraine
3. 学会等名 International conference “The Dynamics of Cultural Processes between Center and Periphery” (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Go Koshino
2. 発表標題 Revolutionary Drama in Belarus and Ukraine
3. 学会等名 ASEEES (Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies) convention (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂川直也
2. 発表標題 ベトナム映画史～南北の歴史から紐解く～
3. 学会等名 日本映像学会アジア映画研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂川直也
2. 発表標題 ベトナムアクション映画の興隆～ゴ・タイン・バンを中心に～
3. 学会等名 日本映像学会アジア映画研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂川直也
2. 発表標題 ベトナム映画の現在形～女性・インディペンデント・韓流～
3. 学会等名 日本ベトナム研究者会議（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上岳彦
2. 発表標題 農耕が先か、定住化先か：ロシア帝国支配下にあるカルムイク人の対応について
3. 学会等名 第7回「牧畜社会におけるエスニシティとエコロジーの相関」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上岳彦
2. 発表標題 D. ショルコヴィツ新著『誰も異族人を救わない、その幸せは彼ら自身にある：プリアート人及びカルムイク人に関する歴史民族誌論文史料集』（2018）を読む
3. 学会等名 日本シベリア学会第5回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takehiko Inoue
2. 発表標題 Buddhists surrounded by Muslims in the Russian empire: How the Kalmyks in the Volga steppe restored the Khanate after the 1771 exodus?
3. 学会等名 The 16th Biennial Conference of the European Society for Central Asian Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takehiko Inoue
2. 発表標題 The Kalmyk Buddhist Monks in the Russian Empire in the Late Nineteenth and Early Twentieth Centuries
3. 学会等名 The 14th Seminar of the International Association for Tibetan Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上岳彦
2. 発表標題 旅行先としての清帝国：カルムイク人・プリアート人の『旅行記』から
3. 学会等名 国際シンポジウム『清帝国におけるモビリティ再興：モンゴルの場合』（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田村容子
2. 発表標題 映画『太陽の少年』と王朔の小説『動物凶猛』、『看上去很美』をめぐって
3. 学会等名 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部「メディア間翻訳・翻案研究：文学テキストの映像化・舞台化(3)」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田村容子
2. 発表標題 映画『太陽の少年』と王朔の小説『動物凶猛』、『看上去很美』をめぐって(2)
3. 学会等名 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部「メディア間翻訳・翻案研究：文学テキストの映像化・舞台化(3)」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田村容子
2. 発表標題 映画『太陽の少年(陽光燦爛的日子)』とソ連の記憶
3. 学会等名 東京外国語大学大学院博士前期課程ダブルディグリープログラム「公共圏における歴史(HIPS)」オンライン・レクチャー「視覚化された革命の記憶」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田村容子, 越野剛
2. 発表標題 パレエのイメージと女性の身体：ソ連映画『1918年のレーニン』の中国における受容
3. 学会等名 日本ロシア文学会第70回大会ワークショップ「東アジアにおけるソ連の社会主義視覚文化 ジェンダー化された身体と越境するプロパガンダ」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北澤直宏
2. 発表標題 現代ベトナムにおける信仰の諸相：党幹部への個人崇拜を通して
3. 学会等名 京都大学IPCR共同研究会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 田村容子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中国文庫株式会社	5. 総ページ数 406
3. 書名 男旦（おんながた）とモダンガール 二〇世紀中国における京劇の現代化	

1. 著者名 妙木忍、日本展示学会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 642
3. 書名 展示学事典	

1. 著者名 田村容子、『野草』百号記念号編集委員会	4. 発行年 2018年
2. 出版社 研文出版	5. 総ページ数 415
3. 書名 中華文藝の饗宴	

1. 著者名 武田 雅哉編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 240
3. 書名 ゆるるおっぱい、ふくらむおっぱい：乳房の画像と記憶	

1. 著者名 武田 雅哉	4. 発行年 2019年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 242
3. 書名 西遊記 妖怪たちのカーニヴァル	

1. 著者名 高山陽子、越野剛、田村容子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 250
3. 書名 社会主義文化における戦争のメモリスケープ	

1. 著者名 井上暁子、三谷研爾、阿部賢一、藤田恭子、越野剛	4. 発行年 2020年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 256
3. 書名 東欧文学の多言語的トポス	

1. 著者名 Mikhail Suslov, Per-Arne Bodin, Go Koshino	4. 発行年 2019年
2. 出版社 I. B. Tauris	5. 総ページ数 362
3. 書名 The Post-Soviet Politics of Utopia: Language, Fiction and Fantasy in Modern Russia	

1. 著者名 石坂健治、夏目深雪、坂川直也	4. 発行年 2019年
2. 出版社 論創社	5. 総ページ数 192
3. 書名 躍動する東南アジア映画	

1. 著者名 Takayoshi Yamamura, Philip Seaton, Shinobu Myoki	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Channel View Publications	5. 総ページ数 249
3. 書名 Contents Tourism and Pop Culture Fandom	

1. 著者名 Christopher Craig, Enrico Fongaro, Aldo Tollimo, Myoki Shinobu	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Mimesis International	5. 総ページ数 242
3. 書名 FURUSATO 'Home'at the Nexus of History, Art, Society, and Self	

1. 著者名 Yukiko Tatsumi, Taro Tsurumi, Takehiko Inoue	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Bloomsbury Academic	5. 総ページ数 264
3. 書名 Bloomsbury Academic 4. Publishing in Tsarist Russia: A History of Print Media from Enlightenment to Revolution	

1. 著者名 日下渉、青山薫、伊賀司、田村慶子、坂川直也	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 392
3. 書名 東南アジアと「LGBT」の政治	

1. 著者名 山村高淑、フィリップ・シートン、妙木忍	4. 発行年 2021年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 410
3. 書名 コンテンツツーツリズム	

1. 著者名 武田雅哉、加部勇一郎、田村容子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 266
3. 書名 中国文学をつまみ食い	

1. 著者名 シンジルト、井上岳彦	4. 発行年 2022年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 162
3. 書名 目でみる牧畜世界 21世紀の地球で共生を探る	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	武田 雅哉 (TAKEDA Masaya) (40216908)	北海道大学・文学研究院・特任教授 (10101)	
研究分担者	越野 剛 (KOSHINO Go) (90513242)	慶應義塾大学・文学部(日吉)・准教授 (32612)	
研究分担者	坂川 直也 (SAKAGAWA Naoya) (50849619)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・連携研究員 (14301)	
研究分担者	加部 勇一郎 (KABE Yuichiro) (30553044)	立命館大学・食マネジメント学部・准教授 (34315)	
研究分担者	妙木 忍 (MYOKI Shinobu) (30718143)	東北大学・国際文化研究科・准教授 (11301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	井上 岳彦 (INOUE Takehiko) (60723202)	北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・特任助教 (10101)	
研究分担者	北澤 直宏 (KITAZAWA Naohiro) (00844630)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・特任研究員 (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 社会主義文化と身体・伝播・越境	開催年 2020年～2020年
---------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関